

☆ 南 一 本 木 自 治 会 ☆



平成 13 年に創立 30 周年を経緯し 40 周年を迎えるに至った。当自治会としては、村の長期、中期計画の推進により幾多の変遷があった。平成 14 年に、北部コミュニティセンター隣りに、社会福祉法人やまゆり会による「みのりホーム」が開設され、通所ではあるが知的障害者授産施設として運営されている。地域的デザインの構想を行政の指導に導かれながら地域要望をまとめ、国道 282 号線一本木バイパスの早期開通実現、下水道汚水処理委員会、まちづくり水深委員会を発足させて活動してきたところです。汚水処理委員会では自治会地区別、年代、組織団体にてワークショップ方式で 2～3 年を費やして、意向、意識調査を集約した。当会全体での産業割合は面積的に、圧倒的農業が基盤となっていて、経済的なことが多分にのしかかり、現状通り合併浄化槽を個々が対応してもらうことにし、汚水処理委員会は解散した。

まちづくり委員会も、自治会活動の一環となっていて、一本木にコミュニティセンターの建設要望のため建設委員会を発足させ、行政側をお願いしてきて、村と自衛隊岩手駐屯地の多大なるご配慮、ご支援を戴き、平成 21 年 6 月に一本木地区コミュニティセンターの完成となり、村の担当部署の指導を得ながら自治会で施設を管理している。おかげさまで有意義な活動の場となっています。平成 22 年秋には、待望の一本木バイパスも開通し、昼夜騒音と大振動で悩んでいた道路沿いの家々では交通量が激減、特に大型車の通行がほとんど無くなり、安眠が得られるようになった。まちづくり委員会としての設立当初から継続している、活動通学路の環境整備事業も平成 15 年から春秋の年 2 回行ってきているが、平成 22 年から小中学校の教師、父兄も参加してくれるようになり総勢 60 名を超える人数で作業を行っている。地区民の運動会 22 回、秋祭り行事も 13 回とそれぞれ継続している。

3 月 11 日の東日本大震災、被災された多くの方々には心からお見舞い申し上げます。

当自治会としては、全戸に義援金を呼びかけ、協力してもらったところです。会員の中には被災地にて支援活動を続けておられるという話も聞いております。

課題としては、自治会の繁栄を望んでおりますが、世代との交流が乏しく世代交代が進められないことがあり、皆が自治会を理解して、目を向けてくれるよう行事を催していかなければならないところです。